

昨日の夕方お母さんと、Aちゃんと、私と三人で散歩に行きました。

お母さんが、

「このごろ長らくのうこつどうへお参りしませんので今日は行きましょう」

といわれましたので、私も一緒に行きました。のうこつどうへお参りしてから、何處へ行こうかとお母さんが云われたので、私はずっと園内を廻って帰りましょうと、云いました。

お母さんは、

「そうだね今日そうしたらずっと廻って帰りましょ」

といっただんずん歩いて行きました。

其の中にもうあたりは薄暗く空にはお星さまが出そうになってきました。

私はふと前の方を見ると、部屋部屋にはもう明るく電気がともされていきました。私達三人は無言で歩いているのに気がつきました。お母さんは空をみて何か考えておられるように思ひました。Aちゃんもお家のことを思ひだしているように淋しそうな顔をしていました。

私もづうと舎の電気の灯って居るのを見ると本當に淋しくなりました。

家に居た時は夏休みになると、いつも田舎に行くのだが、もう今では行かれなくなったのかと思ふと本當に悲しさがこみあげて来ました。心の中では今すぐお父さんのもとに走って行きたい様な気持になりました。

其の時私はふとお母さんやAちゃんの顔をみました、二人はじつと夕焼けの空を眺めておられる、私も黙った空を見ていようかと思いましたが、家の事を思い出してよけい淋しくなると思つて居ると急に、

「ああきれいなお月様」

と云われたので私はびっくりしました。Aちゃんは、お母さん何處にと聞いて居ました。お母さんは、あそこと指をさされましたので、私も空を見ると美しい三日月様が出ていました。今迄電氣ばかり見ていたので目がぼっとしてお母さんが指さされてもしばらく見えませんでした。

Aちゃんが、

「一番星見つけた」

と大きな聲を出しました。其の星は松と松の間に美しく輝いて居ました。じつと空を見て居ると次から次へと星が見えだし、坂をおりて双葉に帰るともう空にはたくさんのお星様がキラキラ輝いて居ました。